

視察調査・研修会等報告書

令和5年7月 27 日

下記の通り報告いたします

小山市議会議員 篠崎佳之 様

議員氏名(関 良平)



研修・視察年月日	令和 5 年 7 月 12 日
研修会場・視察先	佐賀市
研修名・視察目的	① 佐賀市、空地活用・コンテナ広場活用
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	経済部中心市街地振興室 室長 藤田泰浩・同再生係主幹兼係長 桂智之・議会事務局局長 倉持直幸・議会総務課 加藤芳昌。
参加議員(同行者)	関良平・小川亘・福田洋一・篠崎佳之・福田幸平・高橋栄・広瀬武蔵
調査概要	1, 街なか再生計画策定への経緯 2, 参考にして例について 3, 予算について 4, 今後の課題
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	わいわいコンテナプロジェクト 1) 事業背景・社会問題～求められる対策、2) 目指す街の姿・様々な機能が集積し、多くの人々が活動する、歩いて暮らせるコンパクトな中心市街地。3) コンテナプロジェクトの特徴・空地の有効活用と街なかの回遊性向上を図る社会実験として実施、少ない予算で、すぐにでき、中心市街地の活性化に寄与。 2) わいわいコンテナ1①施設整備、土地借地、コンテナ地元建設会社が製作、外構、市民街なか再生会議の委員、街づくり会社社員、ワークビジョンズ社員及び市職員による整備②運営 H23. 6～H24.1 協力地元自治会、街なか再生会議、近隣商店。 3) わいわいコンテナ2、①施設整備、土地借地、コンテナ地元建設会社が製作、外構、市民街なか再生会議の委員、まちづくり会社社員。H24.6～現在、現地を見せて頂きました。空地の有効活用素晴らしい

視察調査・研修会等報告書

令和 5 年 7 月 27 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之 様

議員氏名(関 良平



研修・視察年月日	令和 5 年 7 月 13 日
研修会場・視察先	福岡県福津市
研修名・視察目的	新原古墳群と近隣自治体との協議会
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	福津市教育部文化財課 課長 占部 賢、同課世界遺産係長 池ノ上 宏、議会事務局 局長 堀田 典宏、同課長 高山 賢二。
参加議員(同行者)	関良平・小川亘・福田洋一・篠崎佳之・福田幸平・高橋栄・広瀬武蔵
調査概要	協議会設置への経緯、予算について、苦労した点と今後の課題、福津市 での古墳群活用策、協議会について 神宿る島、宗像、沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会は九州本土から 約60Km 離れた玄界灘の真ん中に浮かぶ沖ノ島を中心とした遺産群は 平成21年1月ユネスコの世界遺産暫定リストに登録、福岡県、宗像市、 沖ノ島の所有者の宗像大社の4者で構成。29年7月世界遺産登録、遺 産群の保存、周辺環境の保全、公開活用を目的とした神宿る島、宗像・ 沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会を設置。 予算は収入61,105千円(負担金2分の1、宗像市8分の3、福津市8分 の1・補助金文化庁の補助金・繰入金
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	遺産群保護・遺産群の価値発信・遺産群価値を高める調査・文化遺産活 用事業。 世界遺産、神宿る島沖ノ島検定試験制度あり 初級試験から上級試験まで本検定を通して本遺産の価値や魅力を知っ て頂ける本市における摩利支天塚などもあり参考になった。

視察調査・研修会等報告書

令和 5 年 7 月 27 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎佳之 様

議員氏名(関 良平



研修・視察年月日	令和 5 年 7 月 14 日
研修会場・視察先	福岡県福岡市
研修名・視察目的	地域包括ケア情報プラットフォーム
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	福祉局、総務企画部、政策推進課長福岡 100 推進課長兼務 奥田一成 同部、同課 ICT 管理係長 赤城 寛 議会事務局総務秘書課総務係長 山口哲生。
参加議員(同行者)	関良平・小川亘・福田洋一・篠崎佳之・福田幸平・高橋栄・広瀬武蔵
調査概要	導入経緯、導入による経済効果や負担軽減の詳細、予算について、システム構築時の工夫と今後の課題。 ビックデータを活用した地域包括ケアシステムの実現に地域包括ケア情報プラットフォーム、データ集約システム「ケアベース」とデータ分析システム、ケアビジョンから構成されており、福岡市が保有する、医療、介護、健診等のビックデータを住民情報に紐づけたデータベースを構築し各システムを活用する高齢者や家族が多様なサービスが切れ目なく提供される。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	ICT を活用した地域包括ケアシステムの実現 1, 分析、共有、提供を実現するためビックデータを管理 2, エビデンスに基づく施策の企画・立案を支援 3, 医療や介護事業者の負担を軽減しケアサービスの質を向上 4, 生活して行く上で必要となるサービスや資源を幅広く提供 ※紐付けしたデータ各部署から出してもらうことと、個人情報の問題 ケアマネージャーの活用、尚民生委員や自治会の役員などの利用はできない、マイナンバーカードとの紐付きはない。個人情報のガイドラインを決め、本市も検討に与える。

視察調査・研修会等報告書

令和 5 年 11 月 30 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎佳之 様

議員氏名 関 良平



研修・視察日時	令和 5 年 11 月 15 日
研修会場・視察先	愛知県一宮市
研修名・視察目的	尾張一宮駅前ビル(Ｉ－ビル)について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	活力創造部指定管理課、課長補佐 田中 寛幸 活力創造部、指定管理課 主事 伊藤 奨 議会事務局 奥田 訓代
参加議員(同行者)	関良平・小川亘・篠崎佳之、福田幸平・高橋栄・廣瀬武蔵
調査概要	駅ビルの建て替えは JR ではできないので、平成16年より地域再生マネージャー事業を活用して駅ビル検討を開始しました。市が JR から借地し駅ビルを建てる方針を決定、20年から設計着手。平成22年6月に JR 東海と一般定期借地権設定契約を2063年3月迄52年6か月の契約締結 平成22年10月に工事発注、2年後の24年9月工事竣工駅前ビル I-ビツが完成。地上7階、敷地面積 4400㎡、建築面積3900㎡、延べ面積 21,400㎡、昇降機乗用エレベーター5台、エスカレーター4台 工事費は約64億5千万円 まちづくり交付金、国からの補助金が10億円 平成17年市町村合併による合併特例債が約43億円
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	起債・補助金 10億円 合併特例債 43億円 最終的な市負担 25億円 一般財源12億円・特例債30% 13億円 JR ができないので JR の敷地を一宮市が借地契約をして駅ビルを建てた合併特例債等があるとはいえ参考になる。

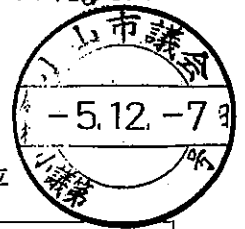
視察調査・研修会等報告書

令和5年11月30日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之 様

議員氏名 関 良平



研修・視察日時	令和5年11月16日
研修会場・視察先	岐阜県大垣市
研修名・視察目的	大垣公園における地域活性化拠点形成のための基盤整備検討調査について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	大垣市副市長、菊池秀之 都市計画部、公園みどり課、課長、辻 紳一 都市計画部、公園みどり課、整備グループリーダー 栗山 一嘉 同上主幹、今津 丈俊 議会事務局、議事調査課主査 残馬 留美子
参加議員(同行者)	関良平・小川亘・篠崎佳之、福田幸平・高橋栄・廣瀬武蔵
調査概要	大垣公園は市の中心部に位置し大垣城本丸及び二の丸」中心に整備された市民の憩いの場。明治13年岐阜県が許可をして開園。 昭和25年戦後復興として市民広場を整備し昭和49年に築山が整備されました。現在では芝生広場、遊戯広場などの公園施設の他に大垣城ホール、大垣城などの運動施設や文化施設がある公園。3.1ha 大垣城ホールは昭和27年に落成し、主にスポーツで利用したり、講演会、市民音楽会多目的な利用、岐阜県で歴史的建築物に選定され昭和63年の改修を契機に大垣ホールとして共用し現在に至っております。 大垣城ホールは老朽化、バリアフリーへの対応、市民の利用割合が高い。広場及び大垣城を含めて一体的な検討が必要。 大垣公園の再整備、民間企業との合同開発など
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	大垣公園と老朽化した大垣城ホールの基盤整備検討調査は地域活性化拠点形成のためですが、小山市の都市公園整備についても民間事業者と共同開発が可能なのか参考になりました。

視察調査・研修会等報告書

令和 5 年 11 月 30 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之 様

議員氏名 関 良平



研修・視察日時	令和 5 年 11 月 17 日
研修会場・視察先	愛知県半田市松堀町 60-1
研修名・視察目的	半田市バイオマス産業都市構想認定事業
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	サーキュレーション事業部 取締役事業本部長 猪飼 幸輝
参加議員(同行者)	関良平・小川亘・篠崎佳之、福田幸平・高橋栄・廣瀬武蔵
調査概要	半田市バイオマス産業都市構想 バイオマス産業都市とは、バイオマスの原料から収集、運搬、製造、利用までの経済性が確保された一貫システムを構築し、地域のバイオマス産業の創出と地域循環型エネルギーの強化により、地域の特色を生かしたバイオマス産業を軸とした環境にやさしく災害に強い街づくりを目指す。 ① 畜産ふん尿を利用したバイオマス発電②その排熱、排ガスを利用した植物工場。循環型社会の形成、農業の振興、畜産臭気の低減、先進的な産業振興を図ります。 ビオぐるファクトリーHANDA 施設概要 1、敷地面積 約 8224 m ² 、受入能力 日糧 100t 発酵方式中温メタン発酵、高温発酵メタン、発電能力 800KW、副産物 排熱、排ガスによるバイオ液肥料。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	① 廃棄物の再資源化による循環型社会の形成 ② バイオマス資源を活用した災害時の電力供給 ③ 畜産の臭気低減による住みやすい街④新しい農業の振興 小山市もゼロカーボン宣言し SDGs 持続可能な開発目標にするためにバイオマス産業の導入を検討したい。

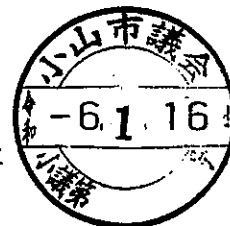
視察調査・研修会等報告書

令和6年1月16日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎佳之 様

議員氏名 関 良平



研修・視察日時	令和6年1月9日
研修会場・視察先	霧島市
研修名・視察目的	霧島市こども館事業について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	保健福祉部 子育て支援課 サブリーダー 種子田 真理子 議会事務局 議事調査課 総務調査グループ 主査 上野 美由紀
参加議員(同行者)	関良平・小川亘・福田洋一・篠崎佳之・福田幸平・高橋栄・廣瀬武蔵
調査概要	国分ハイテク展望台を有効活用 施設改修及び遊具設備を経てこども館開館 整備概要 霧島市こども館は、子育て環境の充実や、遊びの体験を通じてこどもの幼児期における基礎体力を向上させ、こどもの発想力を育成し、健全な成長を図ることとする。 令和元年 改修工事設計業務委託 3,465万円・令和2年度改修工事請負費(建築、空調衛生設備、電気設備)93,529千円・工事監理業務委託 2,090 万円・屋内遊具整備業務委託、プロポーザル39,600 千円・屋外遊具整備業務委託プロポーザル39,952千円・令和3年度、屋外木質休憩所整備業務委託プロポーザル 5000 千円 計183,636 千円。運営形態はプロポーザル審査を経て事業者へ業務委託 令和5年度予算:29,449千円、委託契約期間:令和3年から5年度まで 庭園管理・清掃・設備保守等は別途各業者へ委託業務、包括管理委託。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	令和5年7月開館、霧島市こども館は既存施設ハイテク展望台を有効活用し展望台の施設を一部残し遊具等を整備し子供だけでなく様々な方が集いる施設としました。小山市に於いても学校等の廃校再利用の参考。

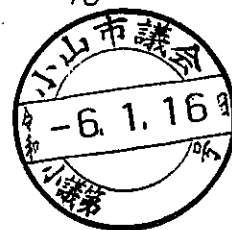
視察調査・研修会等報告書

令和 6 年 1 月 16 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎佳之 様

議員氏名 関 良平



研修・視察日時	令和 6 年 1 月 10 日
研修会場・視察先	鹿児島市
研修名・視察目的	天文館図書館について
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	鹿児島市立図書館 副館長 小城 裕子 天文館図書館 館長 松田優子 天文館図書館 館長補佐チーフ 宮ヶ迫真由美
参加議員(同行者)	関良平・小川亘・福田洋一・篠崎佳之・福田幸平・高橋栄・廣瀬武蔵
調査概要	鹿児島市立図書館は京セラコミュニケーションシステムが提供するAI蔵書管理サポートサービス「SHELF EYE」を導入。 1, AI 蔵書管理サポートサービス「SHELF EYE」を導入 2, 背表紙画像を AI が解析・管理することで蔵書点検における工数削減 3, 「SHELF EYE」と連携したセルフ貸出機も導入、友人カウンター業務を効率化。 天文館図書館は鹿児島の中心部に位置し2022年オープンした複合商業ビル「センテラス天文館」内に開館した。社会資本整備まちづくり交付金の補助を導入。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	SHELF EYE は前蔵書に IC タグを貼付する工数や機器の導入コストが課題ですが SHELF EYE はタブレットのカメラで背表紙画像を撮影するため低コストで導入できます。 ※画像解析、AI による蔵書点検・セルフ貸出システム導入 月の貸出し実績は約2万冊、貸出方法はセルフ貸出機が70%、有人カウンターでの従来方式が30%、図書館運営にて有人カウンター業務の効率化を実現しました。ぜひ小山市にも導入したい。

視察調査・研修会等報告書

令和 6 年 1 月 /6 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎佳之 様

議員氏名 関 良平



研修・視察日時	令和 6 年 1 月 11 日
研修会場・視察先	福岡市
研修名・視察目的	LINE を活用した One To One の情報発信について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	福岡市役所 市長室 広報戦略室広報課長 深沢宏子 同上 広報第3係長 松田晃 市議会事務局総務秘書課 総務係長 山口哲生
参加議員(同行者)	関良平・小川亘・福田洋一・福田幸平・高橋栄・廣瀬武蔵
調査概要	LINE を活用した市民への交流について 福岡市広報戦略室 LINE 公式アカウント運用スタート平成24年初開設 情報発信強化に向けた課題、One To Many 同一情報 One To One パーソナライズした情報、Line 社との協定締結 28.10 生活密着情報 H29.4.25 スタート、サービス開始2日間で10万人突破 H30.8.23 包括連携協定締結、100万人に増加。One To One 情報 以外のシステム、防災から市政だよりなど10項目に対応。日常生活のよ くある問い合わせにチャットボットが回答、チャットボットシナリオデー ターの無償提供。防災機能、平常時は情報配信、災害時は避難行動支援 機能。道路公園損傷などラインで受付担当部署へメールで送信。
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	1, 一人ひとりの市民のニーズに応じた情報発信・選択できる情報 2. LINE で行政サービスをより手軽に、より便利に行政サービス推進。 防災、ゴミ出し日、子育てなどの生活に密着した情報の中から利用者が 選択した情報だけを、LINE でタイムリーに受け取れるほか、家庭ごみの 分別、生活情報、災害時の避難情報を検索、更に道路、公園などの損傷 を市に連絡できるシステムは是非本市にも導入したい。